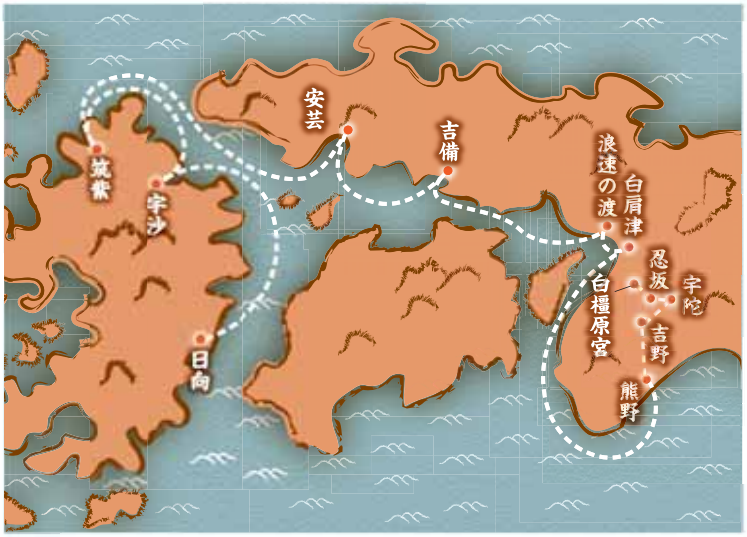
皆さんが暮らす奈良県で編纂された、古事記の世界をのぞいてみませんか？

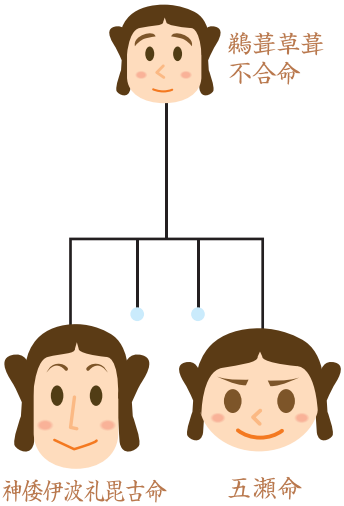
はじめての古事記

第7話

神武天皇の東征



〈今回の登場人物〉



日向（宮崎県）の高千穂に神倭伊波礼毘古命という人物がいました。のちの神武天皇です。彼は兄と共に、天下を治めるのにふさわしい場所を求めて、東へ向かうことにしました。まずは豊国の宇沙（大分県宇佐市）に行き、そこから筑紫（福岡県）、安芸（広島県）、吉備（岡山県）へと順調に進みます。

そこからさらに東へ向かい、浪速の渡（大阪湾の入口）を経て白肩津に停泊していたところ、登美能那賀須泥毘古が戦いを挑んできます。戦いは劣勢で、兄の五瀬命はこのとき受けた矢が原因で命を落としてしまいます。

そこで迂回をして、熊野から吉野、宇陀を経由して大和へ入ることにしました。途中ピンチになりながらも八咫烏の案内もあって、忍坂（奈良県桜井市忍阪）にたどり着きました。しかしそこには尾の生えた土雲という猛者が大勢うなり声をあげて待ち構えていました。そこでたくさんの食事を土雲に振舞い油断を誘います。そして歌を合図として兵士らが一斉に斬りかかり勝利しました。

やがて幾度となく交戦を経て、畝傍の白檮原宮にて初代天皇として天下を治めたのでした。

（本文 万葉文化館　小倉久美子）

編集部の古事記コラム

今回のお話に出てきた八咫烏のようなカラスの神話は中国にも残っているそうです。

その昔、中国を堯帝が治めていたころ太陽が10個同時に空に上がり、あまりの暑さで草木が枯れ始めたそうです。そこで弓の名手の羿という人にそのうち9個の太陽を射落とさせたところ、三つの足を持つカラスが9羽落ちてきたとのこと。

古代中国では、月のウサギに対して、カラスは太陽の象徴とされていたそうです。

漢の時代までに発見されていたという太陽の黒点と関係があるかもしれないようです。

クイズ 古事記ハカセへの道

先月の答え

② 宮崎県でした。

ただし、高千穂というのが宮崎県のどこかは諸説があるようです。

今月の問題

Q 神武天皇の子孫、ミマキイリヒコ（後の崇神天皇）は日本各地に何を派遣したでしょうか？

① 僧侶
② 商人
③ 軍隊

答えは来月号を見てね♪

問 県広報広聴課　☎0742-27-8326 FAX 0742-22-6904